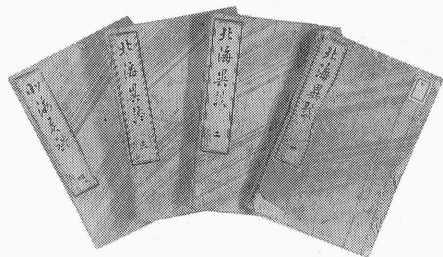


は、まず第一に徳川家や諸大名家の記録など御公儀・御政道にわたる事がらを扱った書物で、幕府写本という部門に多く収められている。「幕府写本」という部門名が実に直截で面白い。

そういう書物が、幕府写本に限られず、意外な部門にも潜んでいて、油断がならない。たとえば随筆写本追加という部門に『北海異談』という作品がある。これは文化年間に大坂で成立した破天荒な軍記講釈で、蝦夷地（北海道）を侵略したロ



シアに日本が立ち向い、函館沖の海戦で幕府と諸藩の連合艦隊がロシア艦隊を撃滅するという架空の戦争の顛末を書き綴る。『赤蝦夷風説考』などに見られるロシアの南下政策への当時の関心の、庶民レベルでの現れであろうが、それにしても驚倒すべき想像力で、作者の講釈師たちは世間を騒がせたかどにより獄門に処せられた。したがって、これはかなりヤバい書物のはずであるが、こういうものを何食わぬ顔で写本随筆などと称して貸し出すところに、大惣の、というより近世の貸本屋のしたたかな根性と、貸本屋文化の注目に値する役割があった。

書名検索の手段としてだけでなく、近世人の読書生活に内在する種々の問題を考える資料としても『京都大学蔵大惣本目録』が活用されることを、編集に関与した者として念じてやまない。

T S S オンライン目録検索の利用状況について

平成2年10月1日より“TSS オンライン目録検索サービス”の運用を開始してから3ヶ月が過ぎました。ここで、現在の利用状況と利用上の留意点についてお知らせいたします。

利用状況：12月末現在の利用申請者（登録者）は153名で、その部局別の内訳は「表1」のとおりです。また、1日を単位にアクセスした人数をカウントした利用数（同じユーザーIDでアクセスした場合、1日何回アクセスしても一人とみなす）は「表2」のとおりで、1日平均の利用者は約4名でありました。

利用上の留意点：（1）外字（非漢字の文字、記号）について；PC98系の端末（利用者の圧倒的多数が使用）等、TTY手順の端末では、通常附属図書館のホストコンピュータから、JIS以外の

文字（つまり外字）が転送されないので、外字は一切表示されず「：」に転換されます。ドイツ語のウムラウトのようなポピュラーなものも外字扱いとなり表示されないので、注意が必要です。

（2）通信ソフトについて；PC98系の端末用に、大型計算機センター提供の3種の通信用ソフトがありますが、「戸田版エミュレータ」以外のものは、図書館のホストとつないだ場合、漢字変換がうまくいかないで、上記ソフトの使用をお勧めします。

なお、附属図書館のコンピュータ室では、「戸田版エミュレータ」のほかに、マッキントッシュ用の通信ソフトも用意し、希望者に配布しています。

（システム管理掛）